

FASHION IENA(イェナ)にてサマールック“Le club iena”を展開!

エリック・ロメール『夏物語』の舞台、フランスのビーチをイメージし、鮮やかなレッド・ブルーのカラーアイテムやレトロ調の柄をピックアップ。“Le club iena”と題し、IENAのサマールックを展開します。

IENA ●開催期間:5/26[金]~ ●IENA http://iena.jp/



EVENT 映画作家エリック・ロメールを語るトークイベント開催!



雑誌『映画横丁』編集人がエリック・ロメールの映画の面白さや魅力について語る。ざっくばらんな映画トーク。また会場のブックユニオン新宿では5/20(土)よりロメール関連書籍やDVDを集めたフェアも開催。対象商品をご購入いただいたお客様には、ブックユニオン限定「ロメールと女たち 四季篇」コラボ葉をプレゼントします。

日時:6/2[金]19:00~(終了予定20時頃) 出演:月永理絵(映画酒場編集室) 参加費:無料 会場:BIBLIOPHILIC & bookunion 新宿(新宿区新宿3-17-5 カフェセル3階) 参加方法:観覧自由 ※状況により入場制限をさせていただく場合がございます。 bbs@diskunion.co.jp http://diskunion.net/bibliophilic/

FOOD PAULにて半券提示でクロワッサンをプレゼント!



対象店舗ご利用(イートイン)または商品のお買上げを1080円(税込)されたお客様で「ロメールと女たち 四季篇」半券ご持参の方、お一人様につきクロワッサン1個をプレゼントします。

●開催期間:6/3[土]~6/23[金] ●神楽坂店:新宿区神楽坂5-1-4神楽坂テラス1F ☎03-6280-7723 ●青葉台店:横浜市青葉区青葉台1-6-13セントロビル1F ☎045-989-2255 ●あざみ野店:横浜市青葉区あざみ野2-1-2東急田園都市あざみ野駅1F ☎045-905-5307 ●六本木一丁目店:港区六本木1-6-1泉ガーデンタワー1F ☎03-5545-9515 ●四谷店:新宿区四谷1-5-25アトレ四谷1F ☎03-5368-8823 ●玉川店:世田谷区玉川13-17-1玉川高島屋SC B1F ☎03-5797-3170 https://www.facebook.com/paul1889japan/

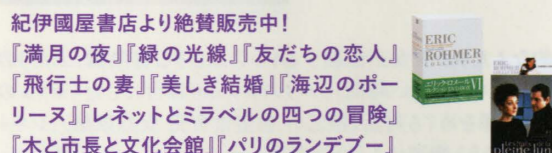
EVENT フランス映画の魅力を考えるトークイベントを開催!



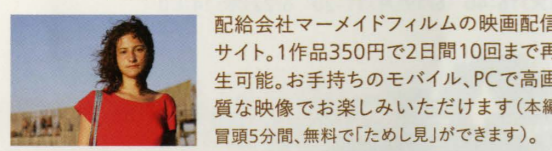
ロメール映画を例に、フランス映画のおもしろさやその背景となる文化についてシェアするプレミアムトークイベント。フランスワインを飲みながら、フランス文学研究者の芳野まいさんに、ロメール映画のふしぎな魅力について語っていただきます。

日時:6/15[木]19:00~(終了予定20時頃) 出演:芳野まい(フランス文学研究者) 参加費:2000円 ★フランスワインやチーズなどをご用意しています。 定員:25名 会場:ヴィノスやまざき(千代田区有楽町2-7-1 イトシアフードアベニュー地下1階) 申込方法:店頭、電話またはメール(予約開始5/29(月)~) ☎03-5224-6391 yuraku@v-yamazaki.co.jp ※電話予約はAM11:00~PM23:00までの間受け付けます。 http://www.v-yamazaki.co.jp/

DVD エリック・ロメール・コレクションDVD (DVD-BOX IV~VI)



CINEMA 映画配信サイトBeauties



★配信作品……ミア・ハンセン＝ラブ『グッバイ・ファーストラブ』、ジュリー・デルピエ『スカイラブ』、ロベール・ブレッソン『スリ』『ラルジャン』、ポーランド映画傑作選『イダ』『イマジン』、ホロコーストの記録と記憶『SHOAH ショア』他、話題作が連続登場!! http://beautiesweb.com

ロメールと女たち 四季篇

Éric Rohmer et ses muses : Contes des quatre saisons

Table with 4 columns: Date, Time, Title, and Content. Shows the schedule for the film series from 6/3 to 6/23.

トークイベント開催! 6/3(土)16:40『恋の秋』上映後 山崎まどかさん(コラムニスト) 6/4(日)14:00『獅子座』上映後 秦早穂子さん(映画評論家) 6/9(金)19:30『恋の秋』上映後 猫沢エミさん(ミュージシャン・文筆家) 6/14(水)19:30『冬物語』上映後 井口奈己さん(映画監督) 6/23(金)16:40『獅子座』上映後 廣瀬純さん(映画評論家)

鑑賞料金(税込) 一般:1,800円/大学生・高校生:1,500円/中学生・小学生:1,000円/シニア(60歳以上):1,100円等 水曜サービスデー▶1,100円(男女共) TCGメンバーズカード会員割引▶土・月・木曜:1,300円 火・金曜:1,000円 前売鑑賞券(税込) ●1回券:1,400円 ●2回券:2,600円 ●トートバッグ付き2回券:3,600円 ★数量限定

★劇場窓口、メイジャーネット通販にて2回券をお買い求めの方は特製ポストカードを1枚プレゼント。(数量限定) ★トートバッグは上映期間中、劇場にて1,200円(税込)で販売します。

Advertisement for Kadokawa Cinema featuring a map, a tote bag, and a postcard. Includes contact information for the cinema.



Conte d'été『夏物語』



Conte d'automne『恋の秋』



Conte de printemps『春のソナタ』



Conte d'hiver『冬物語』



Conte d'été『夏物語』

6月3日[土] → 6月23日[金] 角川シネマ有楽町にて上映

ロメールと女たち 四季篇

Éric Rohmer et ses muses : Contes des quatre saisons

『春のソナタ』『夏物語』『恋の秋』『冬物語』『モンソーのパン屋の女の子』『シュザンヌの生き方』『獅子座』『コレクションする女』『モード家の一夜』『クレールの膝』『愛の屋下がり』『O侯爵夫人』『聖杯伝説』『海辺のポーリーヌ』『満月の夜』『緑の光線』『レネットとミラベル』『四つの冒険』『友だちの恋人』 主演:マリードフィム 配給:コピアフィルム 宣伝:VALERIA 協力:日活 アンスティチュ・フランセ日本 映画酒場編集室 mermaidfilms.co.jp/rohmer2017

春、桜が咲くパリ郊外の別荘で。夏、ブルターニュのリゾート地で。秋、ローヌ渓谷のワイン畑で。冬、寒々としたパリの街で。エリック・ロメールが贈る、四つの小さな恋物語。恋愛愛情 休職 食事... エリック・ロメールの映画には、人生に必要なものすべてがつまっています。映画が描き出すのは、真夏の南仏でのヴァカンスや冬のパリでの夜遊び、郊外の街での日常生活など、フランスの素朴な雰囲気を感じられるものばかり。そんななか恋愛や愛をめぐって交わされる。女たちのとめとないおしゃべりは、人生の快楽と欲びを私たちに届けてくれます。可憐な少女たちをエロティックに描き、大人の女の無垢さを映し出す珠玉の恋愛映画たち。ファンのおいでも特に人気の高い連作シリーズ「四季の物語」をはじめ、初期短編や上映機会の少ない貴重な作品を一挙上映。季節の変化を楽しみながら、さまざまな愛のかたちをご堪能ください。

しんねりむっつりしてて、陰鬱で、見たら勉強になりそうな映画がアリガタがられてた90年代初頭に、ふざけててチャーミングで軽やかで、人生はただただ快樂的なものが正義って小聲で教えてくれたのはエリック・ロメールの映画だし、ロメール映画に出演している女の子たちだった。

井口奈己(映画監督)

『緑の光線』『冬物語』は私に大きな影響を与えました。私にとって最も重要な監督、それがロメールなのです。

ミア・ハンセン＝ラブ(映画監督/『未来と こんにちは』 [Cineuropa] (2016年2月インタビュー)より)

『冬物語』は本当に大好きな映画です。主演のシャルロット、そして彼女の恋人。忘れられない愛の記憶を描いた、実にロメールらしい映画です。

エリーズ・ジラル(映画監督/『ベルヴィル・ト・キョー』)



エリック・ロメール [1920~2010年]

高校で文学教師をつとめた後、1959年に長編映画『獅子座』を監督。ゴダール、トリュフォーより10歳ほど年長でヌーヴェルヴァーグの兄貴的存在だったロメールは、彼らから「親愛なるモモ」と呼ばれ親しまれました。また映画批評家としても活躍し、57年から63年まで映画批評誌『カイエ・デュ・シネマ』編集長もつとめています。2010年に亡くなるまで、『六つの教訓物語』『喜劇と格言劇』『四季の物語』シリーズをはじめ、哲学的なテーマのなかで美しい女たちを描き、多くの観客を魅了したロメール。弟子を自称するホン・サンス(3人のアンヌ)から、リチャード・リンクレイター(『ヒフィア・サンセット』)、フア・バウム・バック(『フランス・88』)、ミア・ハンセン＝ラブ(『未来と こんにちは』)まで、彼の作品から影響を受けた映画人は数えきれません。フランスの美しい風景のなか、年齢もタイプも多様な女たちがくりひろげるウィットに富んだ会話劇は、時代を超えて見る者すべてを魅了しました。

エリック・ロメールの人生

1920年（0歳）	3月21日、フランスのコレズ県チュールに生まれる。本名ジャン＝マリ・モーリス・シュレール。
1942年（22歳）	文学教師の資格を得て、パリのリセで古典文学の教師として働き始める。
1946年（26歳）	ジル＝ペール・コルディエの筆名で長編小説『エリザベト』を出版（執筆は1944年、邦訳は『エリカ』2002年11月号に掲載）。
1948年（28歳）	パリで教鞭をとるかわら、「レタン・モデルヌ」や『ラルヴュ・デュ・シネマ』にて映画批評を執筆し始める。
1949年（29歳）	リセの生徒たちと『シネクラブ・デュ・カルチュエ・ラタン』を始め、ジャン＝リュック・ゴダールやジャック・リヴェット、クロード・シャブローと出会う、『オブジェクティブ49』が主催した『祝われた映画祭』でフランソワ・トリュフォーと出会う。
1950年（30歳）	『シネクラブ・デュ・カルチュエ・ラタン』の会報『ラ・ガゼット・デュ・シネマ』を創刊（全5号で廃刊）。無声短編『ある悪党の日記』を監督。
1951年（31歳）	4月、アンドレ・バザンが編集長をつとめる映画批評誌『カイエ・デュ・シネマ』が創刊され、寄稿しはじめる。ジル＝ペール・コルディエの筆名で、『クレールの膝』の原案小説『葡萄酒』を、ポール・ジュゴフとの共著として『カイエ・デュ・シネマ』に発表。短編紹介あるいはシナルロットとステーク』を監督。
1952年（32歳）	初の長編映画『お手下になる女の子たち』を監督（未完成）。
1954年（34歳）	テープレコーダーによる音声付短編『ベレニス』を監督、自ら出演。
1955年（35歳）	『カイエ・デュ・シネマ』に『セルロイドと大理石』を連載（死後、2010年に書籍化され出版、未邦訳）。
1956年（36歳）	中編『クロイツェル・ソナタ』を監督、自ら出演。
1957年（37歳）	3月、『カイエ・デュ・シネマ』編集長に就任（〜63年）。シナルロットとの共著『ヒッチコック』を出版（邦訳は2015年に出版）。ゴダールと喜劇短編連作『シャルロットとヴェロニクの冒険』を開始。ゴダールの『男の子の名前はみんなバトリックっていうの』の脚本を手がける。8月22日、テレーズ・バルベと結婚（その後2子をもうける）。
1958年（38歳）	初の35ミリ短編『ゴロニクと怠惰な生徒』を監督。11月、アンドレ・バザンが死去。
1959年（39歳）	夏、初の長編『獅子座』を監督（公開は62年）。
1962年（42歳）	5月、『獅子座』がパリで公開。友人で映画監督のバルベ・シュローデルと共に映画製作会社（レ・フィルム・デュ・ロザンジュ）を設立。第1回製作作品として『六つの教訓物語シリーズ』第1弾『モンソーのパン屋の女の子』(短編)を監督。
1963年（43歳）	『六つの教訓物語シリーズ』第2弾『シュザヌの生き方』(中編)を監督。テレビの教育シリーズ番組を振り始める（〜70年）。
1964年（44歳）	短編『パリのナジャ』、ゴダールやシャブローらに参加したオムニバス映画『パリはどこそこ』の一編として短編『エトワール広場』を監督。
1965年（45歳）	テレビのドキュメンタリー・シリーズ（現代の映画作家たち）で『カール・ドライヤー』-『セルロイドと大理石』を撮る。リュック・ムレ監督『ブリジットとブリジット』に文学教授役で出演。
1966年（46歳）	『六つの教訓物語シリーズ』第4弾『コレクションする女』を監督。67年ベルリン国際映画祭で銀熊賞受賞。短編『現代の女子学生』を監督。
1967年（47歳）	短編ドキュメンタリー『モンフォーコンの農夫』を監督。
1968年（48歳）	『六つの教訓物語シリーズ』第3弾『モード家の一夜』を監督。69年アカデミー賞外国語映画賞。70年アカデミー賞脚本賞にノミネートされる。
1969年（49歳）	パリ第一大学で映画史の講義を始める。
1970年（50歳）	『六つの教訓物語シリーズ』第5弾『クレールの膝』を監督。リヴェット監督『アウト・ワン』にバルザックの専門家役で出演。
1972年（52歳）	『六つの教訓物語シリーズ』第6弾『愛の昼下がり』を監督。アンドレ・バザンのチャップリン論と自らの原稿をあわせた書籍『チャーリー・チャップリン』(未邦訳)を出版。

1974年（54歳）	〈六つの教訓物語〉シリーズの原作ともいえる『六つの本心』の話を出版（邦訳は96年に出版）。
1975年（55歳）	テレビ作品『ニュータウン』を撮る。クワイスト原作の『O侯爵夫人』を監督。76年カンヌ国際映画祭審査員特別グランプリ受賞。
1977年（57歳）	自らの学位論文をもとにした研究書『ムルナウの「ファウスト」における空間の組織』(未邦訳)を出版。
1978年（58歳）	『聖杯伝説』を監督。
1979年（59歳）	ナンテールの劇場でクワイスト作『ハイルブロン乙女ケートヒェン』を演出。
1980年（60歳）	〈喜劇と格言劇シリーズ〉第1弾『飛行士の妻』を監督。
1981年（61歳）	〈喜劇と格言劇シリーズ〉第2弾『美しき結婚』を監督。アリエル・ドナン＝ル監督『シッセ・クワッセ』を出演。自らの映画製作会社（Compagnie Eric Rohmer(CER)）を設立。
1983年（63歳）	〈喜劇と格言劇シリーズ〉第3弾『海辺のボーリース』を監督。83年ベルリン国際映画祭で銀熊賞・国際批評家連盟賞を受賞。短編『おおみさん、そこにいる?』を監督。
1984年（64歳）	〈喜劇と格言劇シリーズ〉第4弾『満月の夜』を監督。主演のパスカル・オジェがヴェネチア国際映画祭で主演女優賞を受賞。批評集『美のあじわい』を出版（邦訳は88年に出版）。10月、フランソワ・トリュフォー死去。
1985年（65歳）	〈喜劇と格言劇シリーズ〉第5弾『緑の光線』を監督。86年ヴェネチア国際映画祭で金獅子賞・国際批評家連盟賞を受賞。
1986年（66歳）	『レネットとミラベル』/四つの冒険』を監督。
1987年（67歳）	〈喜劇と格言劇シリーズ〉第6弾『友だちの恋人』を監督。短編『コーヒをお飲みない、さめるわ』を監督。初の戯曲『変な長調三重奏曲』をパリのルノー＝パロー劇場で演出。
1988年（68歳）	短編『記念日』を監督。戯曲『変な長調三重奏曲』を出版。
1989年（69歳）	『四季の物語シリーズ』第1弾『春のソナタ』を監督。テレビ作品『室内遊戯』を監督。
1991年（71歳）	『四季の物語シリーズ』第2弾『冬物語』を監督。
1992年（72歳）	『木と市長と文化会館 または七つの偶然』を監督。
1993年（73歳）	〈現代の映画作家たち〉シリーズ『エリック・ロメール、確かな証拠』に出演（聞き手:ジャン・ドゥージュ）。
1994年（74歳）	『パリのランデブー』を監督。
1996年（76歳）	『四季の物語シリーズ』第3弾『夏物語』を監督。
1997年（77歳）	『四季の物語シリーズ』第4弾『恋の秋』を監督。99年全米批評家協会賞・外国語映画賞を受賞。
1998年（78歳）	『四つの恋の物語』を出版（邦訳は98年に出版）。短編『背中の反り』『モデル』を監督。
1999年（79歳）	短編『土ふまず』を監督。
2001年（81歳）	グレース・エリオットの回想録を原作とした『グレースと公爵』を監督。01年ヴェネチア国際映画祭で金獅子賞・特別功労賞を受賞。
2003年（83歳）	『三重奏バイ』を監督。
2005年（85歳）	マリ＝リヴイエールと共に短編『赤いソファ』を監督。
2006年（86歳）	『我が至上の愛 〜アストレとセラドン〜』を監督。
2010年	1月11日、死去。享年89。

Eric Rohmer

エリック・ロメール監督特集上映

ロメールと女たち 四季篇

〔上映作品 全デジタル・リマスター版〕

四季の物語



© Les Films du Louage, La Sept Cinéma 1981

春のソナタ

1989年 / 107分 / カラー / デジタル
出演:アンメ・ラセードル、ユード・クスタル、フロランス・ダレレ

哲学教師ジャンスは、旅行中の恋人の家の汚さに耐えきれず自分のアパートへと逃げ帰るが、そこはいとこが占領中。居場所のないジャンスは、パーティーで知り合った18歳のナターシャの家に泊まることに、そこにナターシャの父とゴールと若い恋人が加わり、パリの家とフォンテーヌブローの別荘で、女たちの奇妙な静いが始まる。美しい春の庭でくり広げられる、三人の女と一人の男の恋愛ゲーム。



© Les Films du Louage, C.F.R. 1991

恋の秋

1997年 / 112分 / カラー / デジタル
出演:マリ＝リヴイエール、ペトリック・ロマン

親友同士のイザベルとマグリ、娘の結婚の準備をするイザベルは、夫の死後独身のままでいるマグリを心配するが、ワイン畑を営む彼女にその気はない。一計を案じたイザベルはマグリのふりをして婚活を始めるが、事態はおかしな方向へ、40代女性の恋と友情を描いた作品だが、対照的な二人の関係や、ペアの相手が微妙に入れ替わる様など、「友だちの恋人」との対応関係もおもしろい。

中短編

モンソーのパン屋の女の子

1963年 / 28分 / 白黒 / デジタル
出演:バルベ・シュレデール、ミシェル・ジラルドン

ロメールが友人バルベ・シュレデール（バーベット・シュローダー）と構想した教訓シリーズ1作目。16ミリで撮られた本作では、シュレデールが主演の青年を演じ、吹き替えを映画監督のベルトラン・タヴェルニエが担当。プロント娘とパン屋の娘、二人の女の間で彷徨い歩く青年という構図は、このシリーズの基本プロット。

6/4（日）16:40
6/7（水）14:00
6/10（土）19:30
6/21（水）16:40
*『シュザヌの生き方』と併映



© Les Films du Louage, La Sept Cinéma 1981

夏物語

1996年 / 114分 / カラー / デジタル
出演:メルヴィン・ゴボ、アマダ・ラングレ

ヴァカンスを恋人のレナと過ごすため、リゾート地ディナールへやってきた大学生ガスパール。クラブ屋で働くマルゴと親しくなるが、パーティーで知り合ったソレーヌとも急接近。そんななか待ち望んだレナとも再会し…。四季シリーズで唯一男が主人公となった本作は、マルゴ役のアマダ・ラングレの存在もあり『海辺のボーリース』とのセットで語られることも多い。ロメール最後の夏休み映画。



© Les Films du Louage, C.F.R. 1991

冬物語

1991年 / 114分 / カラー / デジタル
出演:シャルロット・ヴェイ、フレデリック・ヴァン・デン・ドリージュ

フェリシーは旅先で知り合ったシャルルと運命的な恋に落ちるが、旅から戻った後、彼に教えた自宅の住所の間違いに気づく。5年後、一人で娘を育てるフェリシーは、インテリのロイクと既婚者のマクサンスの間で揺れ動くが、心は今もシャルルのものにある。運命に弄ばれながら本物の愛を探し求める女の信念と、やがて訪れる奇跡。タイトルはシェイクスピアの悲喜劇『冬物語』より採られた。

シュザヌの生き方

1963年 / 28分 / 白黒 / デジタル
出演:カトリーヌ・セー、フリック・ブーゼン

大学生ベルトランは、アイルランドからの留学生ソフィーに密かな好意を抱いている。一方、カフェで知り合ったシュザヌは友人のギョームに夢中だが、ベルトランはそんな彼女をどこか軽蔑している。主人公の独白によって物語が語られていくなか、パリの街の喧騒や風景が、白黒の画面のなかでリアルに映し出される。

6/4（日）16:40
6/7（水）14:00
6/10（土）19:30
6/21（水）16:40
*『モンソーのパン屋の女の子』と併映

獅子座

LE SIGNE DU LION

1959年 / 100分 / 白黒 / デジタル

出演:ジュス・ハーン、ヴァン・ドード



© Les Films du Louage

40歳になる直前、伯母の莫大な遺産を相続できると知ったピエールは、仲間たちを集めてとんちんかきわき。だがいくら待っても頼みの遺産を相続できず、ピエールはヴァカンス期で閑散としたパリの街をひとり孤独に彷徨うはめに。『勝手にしやがれ』や『大人は判ってられない』が公開され、まさにヌーヴェルヴァーグの名が知れわたった1959年、39歳のロメールが監督した記念すべき長編第1作。

6/4（日）14:00
6/9（金）14:00
6/10（土）11:20
6/16（金）16:40
6/21（水）14:00
6/23（金）16:40

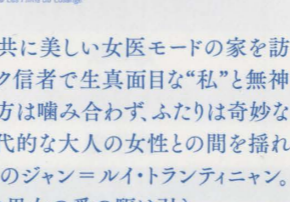
モード家の一夜

六つの教訓物語』第3弾

MA NUIT CHEZ MAUD

1968年 / 110分 / 白黒 / デジタル

出演:ジャン＝クロール・ブリアリ、ペトリック・ワーズ・ファビアン



6/6（火）11:20
6/15（木）16:40
6/18（日）19:30

愛の昼下がり

六つの教訓物語』第6弾

L'AMOUR L'APRES-MIDI

1972年 / 98分 / カラー / デジタル

出演:ベルナルド・ヴェルレー、ヌーズー

仕事も私生活も充実しているフレデリックの楽しみは、街なかで女たちを観察し夢想にふけること。やがてその夢想は、若く美しい女クロエとの出会いにより、午後数時間だけの逢瀬へと発展する。不倫にはまる中年男の悲喜劇ともいえる本作は、教訓シリーズの完結編。夢のシーンには他作品の出演女優たちが登場。実際の撮影は7週間だが、映像ではパリの季節の推移がしっかりと感じられる。

6/4（日）11:20
6/7（水）16:40
6/10（土）16:40
6/18（日）14:00
6/20（火）19:30
6/23（金）14:00

コレクションする女

六つの教訓物語』第4弾

LA COLLECTIONNEUSE

1966年 / 86分 / カラー / デジタル

出演:バトリック・ボージュ、アイダ・ボリフ



© Les Films du Louage

画廊のオープンを控えたアドリアンは、恋人からの誘いを断り、骨董収集家との商談のため南仏サン＝トロベへ。友人の別荘に滞在する彼は、美し奔放な少女アイデと出会う。まるでコレクションのように次々と男を引っ掛けるアイデに苛立ちながらも惹かれるアドリアン。新緑のなかのびとげと肢体を解放する少女と、自意識に凝り固まった男の対照的な様子が可笑しい。ベルリン国際映画祭銀熊賞受賞。

6/6（火）16:40
6/12（月）14:00
6/18（日）16:40

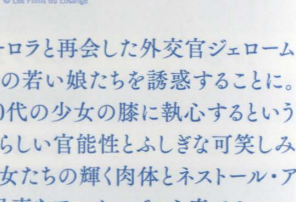
クレールの膝

六つの教訓物語』第5弾

LE GENOU DE CLAIRE

1970年 / 106分 / カラー / デジタル

出演:ジャン＝クロール・ブリアリ、ベトリック・ワーズ・ファビアン



6/8（木）14:00
6/13（火）19:30
6/19（月）16:40

O侯爵夫人

DIE MARQUISE VON ...

1975年 / 103分 / カラー / デジタル

出演:エディット・ピルヴァー、ブルーノ・ガンツ

フランス革命直後のイタリア北部を舞台に、ドイツの文豪クワイストの原作を忠実に映画化した歴史劇。台詞もすべてドイツ語で、撮影はフランケン地方にある城で行われた。物語はひとつの新聞広告から始まる。身に覚えのない妊娠をしたO侯爵夫人は、子の父親に名乗り出るよう呼びかけるが…。繊細な照明を用いた画作りには、ドイツ・ロマン派の画家フースリの『夢魔』が参考にされたという。

6/5（月）19:30
6/13（火）11:20

聖杯伝説

PERCEVAL LE GALLOIS

1978年 / 135分 / カラー / デジタル

出演:ファブリス・ルキエニ、アンドレ・デュソリエ



© Les Films du Louage

『O侯爵夫人』に続いてつくられた異色の歴史劇。ファブリス・ルキエニ演じる野蛮で無知な若者ベルスヴァルは、騎士になることを目指し冒険の旅に出る。原作は、フランス中世最大の物語作家クレチアン・ド・トロワの未完の騎士物語。ロメール作品では珍しいリゾートかなりセットと製作費を要した本作。中世の細密画のように平板な画面のなかで、奇想天外なファンタジーが展開される。

6/8（木）19:30
6/15（木）11:20

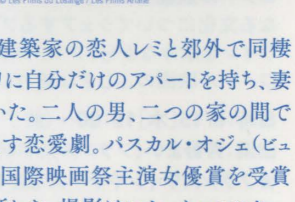
満月の夜

喜劇と格言劇』第4弾

LES NUITS DE LA PLEINE LUNE

1984年 / 101分 / カラー / デジタル

出演:パスカル・オジェ、チェッキー・カリヨ



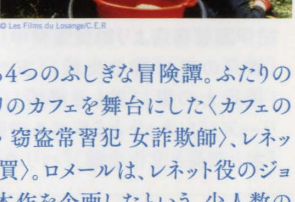
6/9（金）16:40
6/11（日）19:30
6/19（月）14:00

レネットとミラベル／四つの冒険

QUATRE AVENTURES DE REINETTE ET MIRABELLE

1986年 / 99分 / カラー / デジタル

出演:ジュシカ・フォルド、ジョエル・ミケル



6/13（火）16:40
6/19（月）11:20
6/22（木）14:00

海辺のボーリース

喜劇と格言劇』第3弾

PAULINE À LA PLAGE

1983年 / 95分 / カラー / デジタル

出演:アマダ・ラングレ、アリエル・ドナン＝ル



© Les Films du Louage

年上のいとこマリオンと、ノルマンディの別荘ヘヴァカンスにやって来た15歳のボーリース、6人の男女の恋愛ゲームであり、大人との端境期にある少女のひと夏の恋物語でもある本作は、ロメールの美少女映画の傑作。輝く太陽光のなか、海辺や木々の下ですてきなリゾートファッションに身を太陽の女たちにうっとりと思惚れてしまう。ベルリン国際映画祭銀熊賞・国際批評家連盟賞受賞。

6/4（日）19:30
6/12（月）16:40
6/22（木）11:20

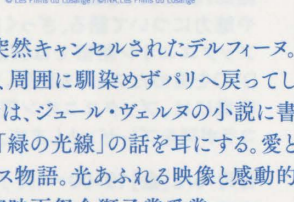
緑の光線

喜劇と格言劇』第5弾

LE RAYON VERT

1985年 / 99分 / カラー / デジタル

出演:マリ＝リヴイエール、リサ・エレディア



6/8（木）11:20
6/16（金）14:00
6/22（木）19:30

友だちの恋人

喜劇と格言劇』第6弾

L'AMI DE MON AMIE

1987年 / 104分 / カラー / デジタル

出演:エマニュエル・ジョーレ、ソフィ・ルノワール



恋に臆病な市役所職員ブランシュと現実的な学生レアは、ふとしたきっかけで友だちに、ブランシュは遊び人のアレクサンドルに思いをよせるが、彼の前では緊張してばかり。一方レアは恋人ファビアンとの関係がうまくいかず、ファビアンはブランシュに惹かれていく。4人の男女がパリ郊外のニュータウンで繰り広げる、ちょっと笑えて最高にハッピーな恋愛模様。80年代のカラフルなファッションも魅力的！

6/12（月）11:20
6/15（木）19:30
6/20（火）11:20

Éric Rohmer et ses muses : Contes des quatre saisons